

【 会員投稿 】



ほあけぼちいあ の「つれづれのまま」

ある日、“ひまじん”なる方からメールでお達しが入った。「老人保護？のために会員投稿をせよ」と。脅迫的ではあるが身に危険が及ぶほどの怖さがある訳ではなし、まして“ひまじん”さんは尊敬する先輩のお一人でもある。断る口実も中々浮かばぬによって、思いつくまゝのくだらぬ拙分を恥書きすることとした。ときどきお付き合いのほどを。

まずは“ほあけぼちいあ”の良い訳のない言い訳から。当人は子供の頃からいたってのなまかわ者(怠け者)である。即ち汗水たらすを厭うも結果を求める、良くいえば生産性を高くの志向だが……。こういうのから生まれる結果は大抵身に付かぬ。なまかわ者は自身の経験からいえば根気がない。根気の無さの一つに本を読むのがいたって好きではない。苦手である。しかしながら人の話を聞くのは結構好きである。ということで、これからの思いつくままの書きなぐりはほとんど全部とっていい程の聞きかじりである。じゃによって拙文。即ちくだらぬことばかりである。

前置きが長くなった。初回のお題は手垢べったりの

「ぼちぼちお墓でもつくろうか」

2年ほど前に公園霊園の一角に墓地をもとめた。条件の一つに3年以内に墓碑を建てることになっている。そろそろどんなお墓にしようか考えなければならぬ。勿論吾も妻も子も孫も名が戒名に変わっているわけでもないしまだ当分は変えたくもない。生家には「先祖代々の墓」があるが、沖縄的な風習もない離れて分家した身にとってはそこに名を刻まない。

吾が生家とその地域の殆どは仏教信心、浄土真宗大谷派(お東さん)。子どものころから、お経のさびの部分がかこちよいメロディーで頭に染み付いている。「キミヨームニョージュニョライー、ナムフカシギコー」

親父が每晚仏壇に向かって唱えているときは家族みな後に座って拝んでいた。法事、葬式のときの坊さんのお経もこのところがクライマックス。勿論意味はさっぱり分からない。呪文である。

仏教はお釈迦さまの教えであること、いうまでもない。2,500年も前にインドで王さまの子に生まれながら自ら修行難行苦行し、35歳くらいで悟りをひらき80歳くらいで亡くなっているのとのことであるが記録はないらしい。

お釈迦さまにはお墓はない。それは？

お釈迦さまの教えがいくつもある中で、命あるものはみな生老病死のあと死に変わる(生まれ変わる)、即ち魂は六道輪廻(りくどうりんね)の何れかに行き着くものの滅することはない、と。死後49日の間、魂はさまよいつづけていて、つぎの命に生まれ変わる。六道輪廻は上等のほうから、天上人・人間・畜生・餓鬼・修羅・地獄。餓鬼より下等は三途の川の向こうとか。

お墓も法事も仏事で、お墓は死者の魂を安置するもの。法事は死者の魂を供養するもの(或いは生者が死者の魂に供養してもらおうという説もある)と思い込んでいた。

しかし、魂は生まれ変わるも滅しない。従ってお釈迦さまの教えである仏教には、お墓もなければ、49日以後の法事もないということである、と。

だがしかし、吾の知るところ日本中の仏教のお寺さんお坊さんで、お墓は要らない、法事はすることはないなどとするのを聞いた事がない。なぜ???

(菱の実会員の方で、否々、お釈迦さまの教えはそうでないとか、お墓は要らない法事はしないお寺や坊さんお知りの方は 菱の実だより で是非教えてください。)

さて、吾が墓碑は……。吾が生家は仏教信心の浄土真宗大谷派であったが、吾も仏教徒である訳ではない。むしろ無宗教無信徒である。

墓碑には吾の分としてはつぎのような事を建立のときとあえず刻もうかと考えている。妻や子供たちに強要はしないつもりである。

吾の名前は、父親はだれで母親はだれ、続柄はなに、どこで生まれたのか。

亡くなる日は自分では刻まない。戒名は付けてもらおうかな？(付けるならば浄土真宗大谷派で)